



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2025
No.634
6月号

— 観音光 —

御面を朝夕べに仰ぎます

毎に悩みは消えてゆくなり

千早振 神の御光射し初めて

塵も芥も消ゆる嬉しさ

世の聖 解くよしもなき秘事を

明す観音の無碍の御光

御光筆『観音光』(教団所蔵)



引首印 光明
落款 自観
落款印 岡懋之印 東山莊主

◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

神言霊

観音様に御願いする態度

今までの何か信仰してる、信者の信仰の仕方は、私から見れば大変間違っているのである。

特に神前において御祈願をする場合、そうである。例えば、何か願事をするのに、洵にくどくどし過ぎるのである。泣くが如く、訴うるが如く、肩を震わし、哀憐を、強いて乞う如き態度は、寧ろ醜しい位のものであつて、それを数分も、数十分も掛けるものさえあるのである。

之は大変な間違いである。譬えて言えば、神様は親様であり、人民は子の如なものであるから、子が親に対し、希望を乞うのに、泣かんばかりに、執拗に訴えるのは、親として決して、気持ちの好いものではないであろう。此理に由つて、観音様へ御祈願する場合、なるべく、非礼に渉らぬよう心掛くると共に、言葉は簡単が良いのである。故に、一つ事を繰り返すのは、大変善くないのである。何故なれば、観音様は、人間の心の底まで見透かしてあらせらるるから、御祈願する前から判つて居られるのは勿論である。故に、御祈願しなくとも、常に乞ひ願つていた事が、奇蹟的に実現する事が、能くあるのはそういう訳である。又人間でさえ、一つ事を繰返されるのは、嫌なものであるから、況して御神霊へ対し奉つては、其点をくれぐれも、心掛くべきである。

〈お伺い〉

観音様の御力が『おひかり』から紐を伝わり体に入りそして手から出ると考えてもよろしいでしょうか。

【神言霊】

そうではない。『おひかり』自体へ霊線を通つて光が行き、それが『おひかり』に入り、それから手から出るのです。紐は金属でもいいのですよ。むしろ首にかけていると意味があるので、戦争中軍隊などでは首にかけていると裸になったとき取り上げられるので腹巻に入れるようにしていたが、これはやむを得ない事情があるからで、事情がないのに勝手にやってはいけない。

(昭和二十三年九月十八日 御光話録)

人間の造り主

人間の造り主は一体誰であるか。之は考うる迄もなく人間であつて、其人の両親である。成程、人間の祖先を造り給うたのは神様であるが、その後は人間が人間を造りつつ今日に及んだ訳である。故に、人間の五体の中には、此貴重なる人間の生命と肉体を造り出し得る神秘な力を有っている訳である。此不可思議力は、智慧や学問でも得られない。機械や薬剤でも得られない。生まれながら自然に一人も漏れなく神から与えられているものである。人間の肉体を造り得る素晴らしい力を人間が有っているとすれば、人間が自己の病を治す位の力を有するとも、別に不思議は有るまい。此理に由つて、自然療法は或程度の効果を奏するものである。



正神を敬い 祖先を尊び 恵みの光に浴くして 感謝報恩の生活を送ります（全五回）

教団綱領の学び

【第四回】恵みの光に浴して

八、恵みの光に浴して

（一）祈り

『言葉に表す方がよい。祈りは想念でも通ずるが、言葉に表した方が強くいくのです。』

（二）入信

『時期がくれば入信しなければならぬよう、神様が順序立ててくれる。また、霊界で祖霊がたくさん救われるのを見て、自分の子孫に対して入るように種々なことをする。霊界の霊の働きが一番力がある。』

『入信するということは、けがれを消滅する方法をおぼえることと、これを行うことを知ることです。罪けがれを取るには、徳を積むとか一人でも人を幸福に導くよう働くことです。』

（三）想念

何を為すにも、なにを為し遂げるにも、一番重要なことは、想念のあり方です。救いのための大きな強い想念づくりです。

明主様は『想念というのは、自ずから湧き起こるものなのです。』と御教示下さっております。想念↓実践です。

『霊界とはいかなるところであるか、これを一言にしていえば、意志想念の世界である。』

『すべて順序というものは最初は頭の中です。これは霊界にできるのです。それでこれが、こうしろ、ああしろという言霊に出て、それから本当に物質が現われる、という順序です。』

『人間が悪いことを考えると、それだけ霊界が曇るので

『人間にある曇りを無くすことが健康法の根本であります。これは光に浴することが一番で光にふれることである。』

朝夕御神体、仰光観音御影を拝むことは光にふれることで、光に照らされることであり。魂に光を受けるから浄まるのである。』

『御参拝は、神様からお許し頂くものであるから、万難を排して、参拝に来るのが信者のつとめである。』

『神様に御願いするので、足を運ぶべきです。神様と人間との位置が転倒してしまふのです。』

（五）参拝の意義

① 神光を頂く

② 御神力と智慧を頂く

③ 御神業奉仕の御用を頂く

④ 祈願と報恩感謝の誠を捧げる

⑤ 霊的飢餓状態にならないよう心の糧を頂く

⑥ 祖霊様の慰霊・御供養をお仕えさせて頂く
⑦ 副守護神の力を抑え、人間の善性を高める

（六）参拝時の心構え

『すべて礼拝の的である御神体に対し、礼拝者が誠をもって心から念願する場合、その神霊の威力、すなわち光明は偉力を発揮するに反し、礼拝者の想念が形式だけで、心からの尊信の念がない場合、神霊の偉力はそれだけ減殺されるのである。また礼拝者が多数あればある程神威弥々赫々たる光明を増すのである。』

（七）誠と約束と時間

『誠の有る人は何よりも約束を重んじよく守る事である。単に約束を守る守らないだけでは世人は大した事とは思わないが、実を言うとなかなかそうではない。即ち約束を守らないという事は、人を偽った事になるから一種の罪悪を犯した事になる。約束の中でも一番軽視しがちなのは時間である。時間の約束をしておきながら、守らない事をよく考えてみるがいい。即ち先方は当てにして待っているの、その退屈や焦心はなかなか苦痛である。待ってい

る人の心持ちを察すべきで、その心が湧かないのは誠がないからである。とすれば外の事はいかに良くてもなんにもならない事になる。従って神の信者たる者は約束の厳守、時間の励行を疎かにしてはならない。もしその実行が出来ないとすれば、まず信仰の落第生である。信者たるものよろしく肝に銘じて、忘れてはならないのである。』

（八）霊界人も参拝を許される

「霊が憑き、明主様に御面会頂きたいといい、御面会頂きに行く時は肩が重く、帰る時は軽くなり、また、御面会頂いております時、眠くなる」と肩をつつきます」

《神言霊》

『やっぱり、それは私のところに来たいのですよ。だから乗っかって来たのですよ。そこで自分は目的を達したから、それで離れた。はっきりしているのですよ。』

（九）礼儀【神歌より】

『小やかな 事としいえど 忽せに せぬ人にして 大事成る』

四月慰靈祭會長挨拶【要旨】

本日は、四月の慰霊祭を皆様
 と共に執り行う事が出来まし
 た事感謝申し上げます。四月に
 入り桜前線も北上を続け、満開
 のところや花が咲き始めたと
 ころもあります。そんな中、新
 年度を迎え、入学、進学、就職
 など新しい世界へ踏み出され
 た方も多いと思います。まだ、

新しい生活リズムにも慣れていない方もおられる事と思いますが、焦らずに一歩ずつ歩んでいってほしいと思います。

す。「天上でも地上でもそれぞれの私がいちばん尊い」という意味があります。ひとりひとりの存在がとても尊く大切であると考えられます。私たちは、それぞれに天職使命を神から与えられ、生き変わり、死に変わり、地上天国を創造する御用をさせていただいています。

なく両親からはじまり多くの御先祖様ともつながっています。その御先祖様は両親二人からそのまた上の両親と数えていきますと五代さかのぼると六十二人、十代さかのぼると二千四十六人になります。おそらく時代をさかのぼる中では現世に生まれ変わってきて

また、天恵三篇には、人間
関係においても見ず知らずの
方であっても一度あうだけで
仲良くなったり、これらは過去

いる方もおられる事と思ひます。魂は永遠ですから現世に生まれ変わってきたとしても御供養の念はその方に届くとも

さて、世界三大聖人をご存知でしょうか。イエス・キリスト、孔子、釈迦、です。イエス・キリストは、キリスト教の創始者。孔子は、中国の学者、思想家。儒教の祖。釈迦は、仏教の開祖。この釈迦が生まれた日は四月八日といわれております。仏教ではこの日、釈迦の誕生を祝う花まつりが行われます。灌仏会とも呼ばれています。お釈迦様は誕生された時、その場で七歩歩いた後、右手を空へ左手を地へ指さして「天上天下唯我独尊」と仰つたとされていま

に生きていた時に身内であつたり親子関係であつたりしたためでこれらを因縁といいます。旅行先でもその場所が懐かしく思えたり、親しみがあつたりという事も同じであります。この反対も同様に因縁があつたという事になります。その中である特定の時代に興味があつたり、その歴史の人物や事柄において好き嫌いがあつる事などはその人がその時代に生まれ合わせ関係があつたということになります。そのつながりは一人自分の身では

言われております。ひいてはその方の徳につながるのとは勿論ですが、御供養する側にもそのお徳を積ませていただくことになります。またその徳が霊層界の向上にもつながり相互に向上が許されるわけです。形式だけの供養にならずに、心のこもった供養の気持ちをお捧げすることが大切になります。新年度をむかえました、日々の神様、仏様に対する気持ちもさるることながら、周りの人達に対しても誠をもった心で接してまいりましょう。

ト
ヒ
ツ
ク
フ

明主様の御遺作、長野教会へ

三月から四月の二ヶ月間にわたり明主様の御遺作展示が長野教会にて行われた。予め本部に申込みを行い、六点の御遺作をお借りしての展示となった。

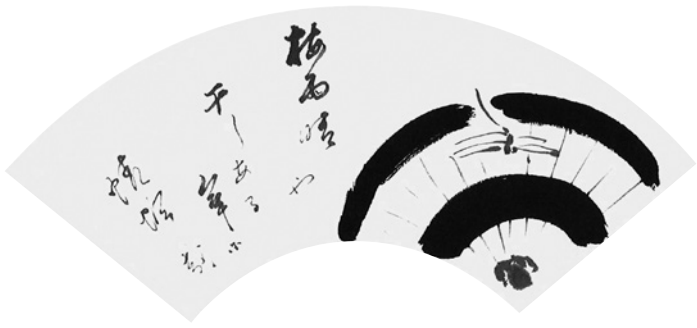
観音様の御姿をはじめ『浄』、『光』といった当時の『おひかり』や『誠』の御軸の展示が行われ、実物を間近に拝する事ができるとあつて祭典などの際には、興味深く拝観する光景や、こどもの春休みにあわせて親子で拝観にみえるなど、貴



重な御遺作の御光に接し信徒の喜びも如何ばかりかと感じるところであつた。



長野教会における御遺作展示の様子



蜻蛉哉 とんぼかな
梅雨晴や つゆはれ
干しある傘に ほしあるかさ

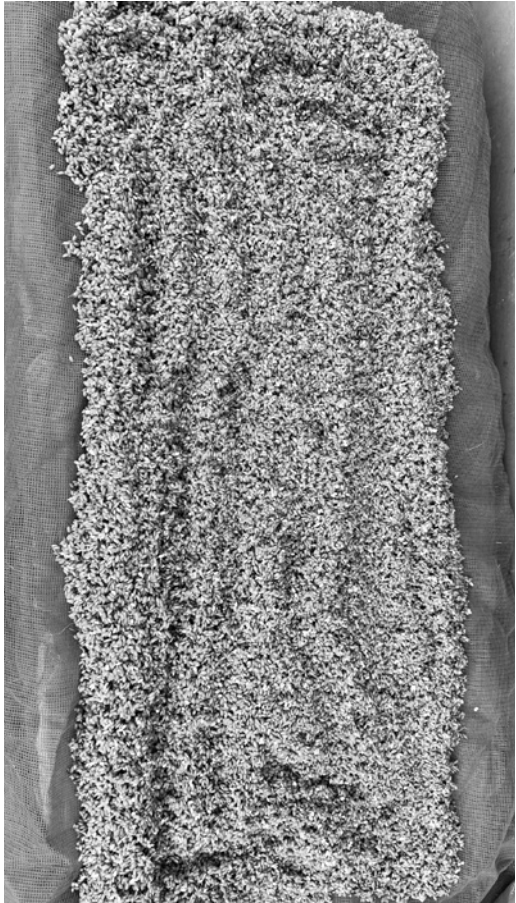
(昭和四年)



岡田茂吉師 の 自然農法

今年の米作り始まる

※稲苗作りのためのモミ蒔き作業



モミ蒔き前の種モミ



育苗トレーへの土入れ



作業後の積み上げられた育苗トレー

伊那農場にて今年の米作りが始まり、初期の重要な作業であるモミ蒔きが四月二十九日に行われた。この作業は稲の苗を作る為の種となるモミ米を育苗トレーに蒔く作業であり、三月末から準備が進められてきた。先ず、種モミの先端についているヒゲ状の部位を取り除くノギ取り作業を行い、暫く経った後、種モミを専用の循環式の温水器に一週間近く付け込んでじっくりと時間をかけて発芽を促す「さい芽（が）」を行った。モミ蒔き作業にむけて、育苗用ビニールハウスのビニール貼り換えや育苗トレーの土入れを行い、作業当日を迎えた。この日は農場のある伊那教会信徒の皆さんのご協力も頂きながらモミ蒔き作業が行われた。専用機械を使用するものの、機械への投入前にトレーに蒔いた水が少しでも乾かないようにノンストップで作業を進めなければならぬものの、この日は晴れていたものの、風が強く、作業にも多少の影響があったが、効率的に作業を行った結果、計六十四枚のトレーへのモミ蒔き作業は一時間半程で全て完

了した。今後はビニールハウスの中にトレーを積み重ねてシートで包み数日間かけて芽を成長させていく事になるが、ビニールハウス内の温度管理に細心の注意を払う必要があり、当分は気を抜けない管理が続く。

トピックス

東京教会発 第三回こども食堂（テスト開催最終回）



四月十二日（土）、テスト開催最終回を無事終えることが出来ました。こども食堂に対するご理解・ご協力に深く感謝します。一般の方四組八名・信徒三組七名（内光会員一名）と期待を寄せた一般参加者数の上昇線を描くことはできませんでした。ある程度の予想はしていましたが、新興宗教団体が運営するこども食堂の『厚い壁』を痛感させる一日となりました。ただ三回目にしてやっと参加者からの参加に至ったホ

ンネや参加しての素直な感想を聞くことが出来、今後の効果的な広報活動や『立ち位置』を考える参考となったことが大きな収穫でした。運営上も沢山の課題が浮き彫りになり、五月は一度こども食堂をお休みし、課題の対応に取り組めます。

こども食堂運営委員会からのお知らせ

- ◎ 次回開催は六月二十八日（土）です。
- ◎ 現在ホームページ作成中
- ◎ 不要になった本ではなく、こどもたちに読んでもらいたい本がありましたら、どうぞ寄贈をお願いします。特に絵本・図鑑を歓迎します。

まず、信徒のみなさんにお詫びせねばならないことは、毎回多くのボランティア参加の申し出を頂いているにもかかわらず、「一般参加者の視点からの適正人員」を優先させたことや、「スタッフのトレーニング」の意味合いもあって、折角の申し出をお断りしてしまいました。申し訳ありません。今後、一般参加者が奇跡的に増加することは望めませんが、その努力を重ねボランティア枠を増やしていきますので、どうぞご理解下さい。

まだこども食堂に来店していない方は、是非一度召し上がっていただいて、感想・意見をお聞



食後に読書コーナーで読書する姿も
（プライバシー保護のため一部加工してあります。）